



一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会

第20回学術大会・総会 教育講演

大会長：寺内吉継

実行委員長：表茂稔

低侵襲手術支援ロボットによる最新外科治療

絹笠 祐介

東京医科歯科大学 消化管外科学分野

近年、外科領域では低侵襲手術の普及が著しい。日本内視鏡外科学会アンケート集計結果によると、2021年の大腸癌症例に占める内視鏡下手術の比率は83.8%であり、本邦において広く普及した術式といえる。一方で、腹腔鏡手術は平直線的な鉗子を用いることなどで生じる動作制限による、技術的困難性が問題となっており、この短所を補うもう一つの方法として手術支援ロボットを用いたロボット支援手術が注目され、国内外で手術件数が増加している。da Vinci® surgical systemを用いたロボット手術は、鮮明な三次元ハイビジョン視野の下、モーションスケーリングや手振れ補正機能を有した自由な多関節鉗子による、安定した鉗子操作を特徴とする。より精緻な手術と短いラーニングカーブが特徴となる。本システムを用いたロボット手術は2001年に米国で前立腺癌の手術において初めて行われた。本邦では、2008年に本邦初の手術が行われた以降、大腸癌領域では2018年度の直腸切除の保険収載を契機に、直腸切除術が急増している。2021年度のNDBデータでは、直腸癌の16%が既にロボット支援手術が占めるようになっている。結腸癌も2022年度の診療報酬改定にて保険収載された以降は、直腸癌同様に増加している。最近では国内外の新規企業からの新たな手術支援ロボットも薬事承認され、臨床に用いられるようになっており、2023年7月に東京医科歯科大にて、世界初となる「触覚」を有する国産手術支援ロボット「Saroa サージカルシステム」を用いた手術を施行した。

略歴

1998年 東京医科歯科大学医学部腫瘍外科学分野
2006年 静岡県立静岡がんセンター 大腸外科 非常勤医師
2007年 東京医科歯科大学大学院 腫瘍外科学分野 卒業
2017年 東京医科歯科大学大学院 消化管外科学分野 教授
2023年 東京医科歯科大学附属病院 病院長補佐